

平成25年度 京都府立大学地域貢献型特別研究 (ACTR) 成果

分類 番号	A 2	取組 名称	和束町の歴史と文化遺産
研究代表者： 文学部 (文学研究科) 教授・上田 純一 講師・向井 佑介			
研究担当者： 京都府立大学 (櫛木謙周、横内裕人、藤本仁文、小林啓治、川瀬貴也、中純夫、岡本隆司、井上直樹、渡邊伸、川分圭子、阿部拓児、菱田哲郎、東昇、上杉和央、竹中友里代) 外部分担者 (福田敏朗氏、藤井孝夫氏)・協力者 (中嶋孝浩氏、伊吹学氏)			
主な連携機関 (所在市町村、機関 (部署) 名)			
京都府相楽郡和束町 (相楽東部広域連合教育委員会)			
【研究活動の要約】			
<p>京都府南部の和束町は、いま世界遺産登録の可能性が検討されている「宇治茶」の最大の産地である。和束の茶畑景観や鷲峰山金胎寺を中心とした信仰空間など、世界遺産の構成要素となりうる重要な資産がありながら、これまでこの地域の歴史や文化遺産に対しては体系的な調査がおこなわれてこなかったため、それらの歴史的な価値や意義も学術的に明らかにされていなかった。この研究は、そうした問題を解決するため、地域にのこる文書や絵図、茶畑のある景観、人びとの慣習や信仰など無形の遺産、寺社や石造物など有形の遺産を体系的に調査して記録し、それらがどのように形成されて現在まで継承されてきたのかを解明し、またそれらを将来どのように活用していくのかを考えるものである。</p>			
【研究活動の成果】			
<p>第一の成果は、地域にのこる古文書の記録化である。和束町東部の湯船地区にのこる区有文書を調査し、どのような文書や絵図があるのかをリスト化した。そのうち、近世の文書についてはすべて写真を撮影し、詳細に内容を検討した。こうした文書は時間の経過とともに劣化していくもので、不慮の事故により失われることもあるため、現在のすがたを記録しておくことは、地域のかげがえのない遺産を将来に伝えていくための重要な作業である。</p> <p>第二の成果は、寺社と石造物の測量である。鷲峰山頂にある金胎寺の境内を数日間かけて測量調査し、地形図を作成することにより、その寺院がどのような空間構成をとっているのかが一目でわかるようにした。さらに、金胎寺のある鷲峰山頂の宝篋印塔や山下の白栖地区にある弥勒磨崖仏などの三次元写真測量調査をおこなった。こうした三次元写真測量のデータは学術的に活用できるだけでなく、次第に風化していく石造物を三次元の情報として記録して後世に伝えるという重要な意味をもち、また地域の観光やまちづくりに文化遺産を活用していく際にも大いに役立つものである。</p>			
【研究成果の還元】			
<p>本研究は2年計画であるため、最終的な成果報告会は平成26年度末を予定している。全体の成果をまとめた報告書は京都府立大学文化遺産叢書として、やはり平成26年度末に刊行予定である。本年度はその中間報告会を京都府立大学において3月19日(水)に開催した(参加者約15名)。</p> <p>また、湯船地区の文書・絵図類を撮影した写真を、記録として地域で保存するため、その紙焼きとデータを和束町に提供した。</p>			
【お問い合わせ先】			
文学部 (文学研究科)		講師・向井 佑介	
Tel: 075-703-5269		E-mail: mukai@kpu.ac.jp	

参考（イメージ図、活動写真等）



湯船区有文書の調査
(2013年8月1日)



弥勒磨崖仏の三次元写真測量
(2014年2月21日)



金胎寺境内の測量調査
(2014年3月3～7日)